

児童の実態

- 課題に向かって自分から進んで活動したり、仲間と関わりながら活動したりする児童が多い。
- △目的や場面、状況に応じて自分の考えや気持ちを話そうとする態度は身に付きつつあるが、既習表現から適切な表現を選んで話すことに困難さを感じる児童も見られる。

学校教育目標

なかまと
まごころこめて
すすんでやりぬく子

学びみがき 健康みがき

こころみがき

市の方針と重点

【外国語教育】

- 外国語を通じてよりよくコミュニケーションを図るための資質・能力の育成
- ・4技能5領域の力を系統的に育成するための指導計画の工夫・改善
 - ・目的や場面、状況等に応じて、自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動の充実
 - ・伝え合う喜びや、成長を実感できる機会の充実

**コミュニケーション能力を高め、自他の伸びや変容を実感する児童の育成
～目的や場面、状況等を明確にした言語活動を通して～
(3年計画 2年目)**

目指す児童の姿

低学年

- ・目的や場面、状況等に応じて、既習表現を繰り返し用いながら、自分の考えや気持ちを伝え合うことができる児童
- ・自己の学びや変容を自覚し、自らの学習を調整し、楽しく活動に取り組むことのできる児童
- ・自分の頑張りや仲間のよさを見つづけることができる。

中学年

- ・目的や場面、状況等に応じて、既習表現を用いて、自分の考えや気持ちを伝え合うことができる児童
- ・自己の学びや変容を自覚し、自らの学習を調整し、粘り強く活動に取り組むことのできる児童
- ・仲間の考えを取り入れたり、よい姿を模倣したりすることができる。

高学年

- ・目的や場面、状況等に応じて、即興的に考えながら、既習表現を用いて、自分の考えや気持ちを伝え合うことができる児童
- ・自他の伸びや変容を自覚し、自らの学習を調整し、粘り強く活動に取り組むことのできる児童
- ・仲間の考えを認めたり、自分の考えとの違いに気付いたりし、視野を広げることができる。

研究仮説

児童の実態に応じて目指す姿を明確にした目標と指導計画を基に、目的や場面、状況等を明確にした言語活動や指導過程、評価の在り方を工夫することにより、コミュニケーション能力を高め、自他の伸びや変容を実感する児童の育成につながると考える。

研究内容

1 目標・指導計画の工夫・改善

○目指す姿を明確にした学習到達目標の設定と単元指導計画の改善

- (1) 児童の実態に応じた学習到達目標に向かう願う児童の姿の明確化
- (2) 単元の見通しをもち、単位時間の役割を明確にした単元指導計画の工夫

2 指導過程の工夫

○自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動の充実

- (1) 目的や場面、状況等を明確にした活動の設定
- (2) 児童が興味をもって取り組む教材の作成と活用
- (3) ICTの効果的な利活用

3 評価と支援の在り方

○学習改善や指導改善につながる学習評価

- (1) ねらいやTASKに迫る中間コメントの在り方
- (2) 自己調整を図り、粘り強く活動に取り組む評価の工夫
- (3) パフォーマンス課題の設定と、それに向けた指導と評価の一体化